

単元名

いくぞ！がっこう たんけんたい

教科書 上巻 p.2 ～19

単元の配当時間 13時間／活動時期 4 ～ 5 月

単元の目標

学校や通学路を探検する活動を通して、学校の施設のようすや学校生活を支えている人々や友達、通学路のようすやその安全を守っている人々について考え、学校での生活はさまざまな人や施設と関わっていることがわかるとともに、楽しく安心して遊びや生活をしたり、安全な登下校をしたりすることができるようにする。

小単元の目標と評価例

※ここに示した例は、啓林館の教科書を使用した場合に考えられる参考例です。学校の実態に合わせて改変して使用してください。

小単元名と小単元の目標	評価規準（おおむね満足できる）		十分満足できると見取る児童の具体例	努力を要する児童への支援
なにが あるかな？ だれが いるかな？（1時間） 幼稚園や保育所、こども園での生活を思い出したり、学校にある施設やものの写真を見たりして、小学校にありそうな施設や小学校にいそうな人を予想したり、友達と伝え合ったりして、学校探検への意欲を高めることができるようにする。	思	幼稚園や保育所、こども園での生活を思い出し、小学校にありそうな施設や小学校にいそうな人を予想したり、伝え合ったりしている。	「幼稚園には先生のいるお部屋があったから小学校にもあると思う」「小学校にもたくさんの本がある図書室があると思うから、そこで本を読んでみたいな」など、幼稚園や保育所、こども園での生活と関連づけながら、小学校にもこんな部屋がありそうだという考えをもち、伝え合っている。	●幼稚園や保育所、こども園ではどのような生活をしてきたのかの思い出を話したり、入学式で体育館に向かうときの写真や入学式で関わってくれた先生などの写真を見たりしながら、探検への意欲を高められるよう支援する。
	態	自分の小学校について詳しくなりたいという思いをもって、友達と関わろうとしている。	「図書室に行ってみたい」などと発言した子どもがいたときに、「どのくらいたくさん本があるんだろうね」「図鑑がたくさんあったらうれしいな」など、友達の発言につなげて自分の思いを積極的に話そうとしている。	●教科書上巻p.4 ～ 5を見ながら、どのような部屋がありそうかを考え、そこで何をすることができそうか、何をしてみたいかなどの思いをもつことができるよう支援する。
がっこうを たんけんしよう（2時間） 学校の施設のようすを見たり、そこにいる人と話をしたりして、学校には、教室のほかにもさまざまな施設があり、それらを利用する人々や、そこで働く人々がいることに気付くことができるようにする。	知	学校には、教室のほかにもさまざまな施設があり、それらを利用する人々や、そこで働く人々がいることに気付いている。	「ここは何の部屋かな」「教室と机の形が違うよ」「校長先生はこの部屋にいるよ」など、探検で見付けた部屋や出会った人に興味をもち、それぞれ違った役割がありそうだと気付いている。	●教師が子どもといっしょに学校を探検しながら、自分の教室との違いに目を向けたり、そこにいる人と話したりすることを促す。
	思	学校にあると予想していた施設やそこにいる人々について確かめながら、楽しく探検している。	「やっぱり図書室にはたくさんの本があるね」「幼稚園にもこの本があった。大好きな本があってうれしい」など、自分が予想したことを確かめたり、幼稚園や保育所、こども園での生活とつなげて考えたりしながら、楽しく探検している。	●行ってみたい場所や確かめたいことがある子どもの話を取り上げ、その中から興味のあることを選んで、友達といっしょに探検することを促す。

小単元名と小単元の目標	評価規準（おおむね満足できる）		十分満足できると見取る児童の具体例	努力を要する児童への支援
がっこうのひとと はなして みよう（2時間） 学校生活を支えている人々に自分の知りたいことをたずねたり、学校で働く人々と話をしたりして、学校の施設とそこで働く人々の役割について考え、それらと自分の生活との関わりに気付くことができるようにする。	知	学校の施設やそこで働く人々と、自分の生活との関わりに気付いている。	「このお部屋の机に水道やコンロがついているのは、料理をするためなんだね。家庭科室とって、5・6年生になったときに勉強で使うと教えてもらいました」「保健室には、けがの手当てをする道具や具合が悪いときに寝るためのベッドがあったよ。先生が『困ったときはいつでも来てね』と優しく言ってくれたよ」など、その施設の名前や位置に加えて、施設やそこで働く人々の役割とこれからの自分の生活がどのようにつながっていくのか気付いている。	●学校の施設の目的やそこで働く人々と自分の生活との関わりに気付くことが難しい子どもには、教師がいっしょにその施設に応じた活動をしたり、教師を交えてそこにいる人々と話をして、その施設との関わりを実感できるようにする。
	思	自分が疑問に思ったことを、学校で働く人々にたずねたり、話をして確かめたりして、記録カードに絵や言葉で記録している。	「図書室には何冊の本があるのかを聞いたら、〇〇先生が優しく教えてくれました。1年生も休み時間や勉強の時間に来て好きな本を2冊ずつ借りることができる」と教えてくれました」など、自分の疑問を確かめ、わかったことを記録カードに絵や言葉で記録し、友達や教師に伝えている。	●行きたい場所、確かめたいことを決めることができない子どもには、それまでの活動で仲良くなった子どもといっしょに行動するように促し、楽しく探検をできるように支援する。 ●記録カードに絵や言葉で記録することが難しい子どもには、探検で見付けたものを問いかけ、話したことを教師が記録カードにキーワードでかき残すなど、その子どもの発見が残るよう支援する。
	態	学校の施設やそこで働く人々について、もっと知りたい、親しくなりたいという思いをもって、関わろうとしている。	「図書室の先生が『休み時間にまたおいで』と言ってくれたから、本を読むに行ってきました」「お兄さんお姉さんの部屋に行ったら、椅子に座らせてくれて折り紙を教えてくれたんだ。もう一度行っていっしょに遊びたいな」など、親しくなった人や詳しくなった場所に自分から繰り返し関わろうとしている。	●学校探検のようすの写真や学校で出会った人々の顔写真などを掲示し、少しずつ学校の施設や人々に興味をもっていくことができるようにする。 ●休み時間に教室から出かけていく子どもたちといっしょに遊びにいくことを促す。
はるの こうていを たんけんしよう（1時間） 春の校庭を探検することを通して、そこにある施設、動植物、それらを管理する人々の存在に気がき、よりよい関わり方を考え、これからも楽しく安全に遊んだり生活したりできるようにする。	知	校庭にある施設、動植物、それらを管理する人々の存在に気付いている。	「動物が元気なのは、毎日掃除やエサやりをしているお兄さんお姉さんがいるからなんだね」と、施設や動植物に関わる人がいることや、「学校の中で仕事をしていた用務員（技術員）さんが、外にある花壇のお花にお水をかけていたよ。学校の外の仕事もしてくれているんだね」と、学校を管理する人がさまざまな役割を果たしていることに気付いている。	●校庭にある施設の役割、動植物、それらを管理する人々の存在に気付くことが難しい子どもには、その場に応じた体験をさせて実感できるように支援する。 ●校庭の動植物やそれを管理する人々のようすがわかる写真を準備し、花が咲いたときなどに合わせて話題にするようにする。
	思	校庭の遊具や自然との適切な関わり方（ルールやマナー）を考えながら、楽しく安全に遊んでいる。	「遊具は順番を守って仲良く使おうね」「ウサギ小屋にウサギがいたよ。『ウサギが怖がるから静かにしてね。触りたいときは6年生のお兄さんお姉さんに言ってね』とかいてあったよ。みんなで6年生にお願いしてみよう」など、事前に確認したルールやマナーだけでなく、その場の状況に合わせて適切な関わり方を考えながら、楽しく安全に遊んでいる。	●遊具で遊ぶときに順番を守ることができなかつたり、動植物を手荒く扱ったりする子どもには、ほかの子どもたちの姿を観察させ、その場所の使い方とともに振る舞い方に気付くことができるようにする。 ●適切な関わり方（ルールやマナー）があることを継続的に伝え、できている子どもを取り上げて認めていく。

小単元名と小単元の目標	評価規準（おおむね満足できる）		十分満足できると見取る児童の具体例	努力を要する児童への支援
がっこうの ひみつを しょうかい しよう（3時間） 学校を探検してわかったことを友達と伝え合う活動を通して、学校の施設のように学校生活を支えている人々について考え、学校での生活はさまざまな人や施設と関わっていることがわかり、これからも楽しく安全に学校生活を送ることができるようにする。	知	学校の施設のだいたいの位置や特徴、学校生活を支えている人がいることや、その人たちが学校のために仕事をしていることがわかっている。	「図書室の本は1週間借りることができるそうです。図書室の〇〇先生は、私たちがたくさんの本を読めるように本の修理もしてくれていました」「保健室の冷蔵庫には、食べ物が入っていないくて、けがをしたときに冷やすための氷が入っていました」など、その施設の特徴や、学校生活を支えている人々の存在が自分の生活にどのようにつながっているのかわかっている。	●学校生活のよさに気付くことが難しい子どもには、掲示物の写真などを示しながら、学校に来て遊んだことや出会った人と関わったことを想起することができるように支援する。 ●継続的に子どもの学校の施設や、学校生活を支えてくれている人々との関わりを見守り、関わり方に変化が現れたときに成長を言葉で伝えていく。
	思	探検した場所の特徴や利用のしかた、探検で出会った人々との関わりについて、絵や言葉で表現し、考えたことを交流している。	記録カードや電子黒板に映し出された写真、場所ごとに特徴をまとめた掲示物などの情報を生かしながら、これまでに探検した場所の特徴や利用のしかた、出会った人々と自分の生活との関わり方をつなげて話している。	●見付けた場所の説明だけで終わってしまう子どもには、聞いている子どもに質問を促したり、教師が質問したりして、場所の特徴や利用のしかた、出会った人との関わりに話が広がるように支援する。 ●うまく話すことができない子どもには、その子どもの記録カードを持って、教師が代わりに話し始め、その子どもに問いかけながら言葉を引き出していく。
	態	自分の学校生活がさまざまな施設や人々に支えられていることに安心感をもち、これからも楽しく安全に学校生活を送ろうとしている。	「保健室の先生がいます、けがをしたり具合が悪くなったりしても安心だね」「お兄さんお姉さんがウサギの世話のしかたを教えてくれたから、毎日ウサギに会いに行くのが楽しみになりました」など、学校探検での経験を生かして、これからも学校の人と関わりながら楽しく安全に学校生活を送ろうとしている。	●学校生活にまだ安心感をもてずにいる子どもについては、教師が日々の生活のようすを見守り、学校のさまざまな人々や施設と関わろうとする姿勢を支え、成長を言葉で伝えて認めていく。
~やってみよう~ がっこうの まわりを あるいて みよう（2時間） 学校の周りを歩き、通学路のようすやその安全を守っている人々について考える活動を通して、そこにあるものや人々の役割について気づき、これからもルールやマナーを守って安全に登下校できるようにする。	知	通学路のようすやその安全を守ってくれている人々の存在がわかっている。	「朝、商店街のお店の人が『行ってらっしゃい。気をつけてね』と挨拶をしてくれてうれしいです」など、地域の人と関わるよさに気付いたり、「どんな天気の時きも学校の近くの横断歩道には、地域の人がいて、見守ってくれているんだよ」など、通学路の安全を守るために努力してくれている人がいることに気付いたりしている。	●通学路を含めた地域のよさに気付くことが難しい子どもには、登下校やふだんの生活の中で、地域の人と関わったことや助けてもらったことなどを想起させるようにする。
	思	登下校で出会う地域の人々が、どのように自分たちの安全を見守ってくれているかを考え、伝え合っている。	「横断歩道でいつも『交通安全』の旗を持って、私たちが安全に渡らせてくれます」「交番のおまわりさんは、私たちが学校に来るときや帰るときに交番の前で見守ってくれているよ」など、自分たちの生活と関連づけて考え、気付いたことを伝え合っている。	●学校の周りを歩いたときの写真や登下校をしているときの写真を示し、いつも当たり前のように見ている地域の人々が何をしてくれているか、改めて注目することができるようにする。
	態	通学路のようすやその安全を守ってくれている人の存在を感じ、適切に関わりながら安全に登下校をしようとしている。	「『こども110番』の看板がたくさんあるよ。困ったときに助けてくれる場所がたくさんあってうれしいね」「点字ブロックを使う人がいたら道をゆずりたいね」など、通学路のようすやその安全を守ってくれている人や地域の人と気持ちよく生活するために、自分から地域の人と適切に関わりながらルールやマナーを守って安全に登下校しようとしている。	●安全に登下校をすることが難しい子どもには、継続的に登下校のようすなどを話す機会を設け、成長を認めていく。

小単元名と小単元の目標	評価規準（おおむね満足できる）		十分満足できると見取る児童の具体例	努力を要する児童への支援
<div>～やってみよう～</div> <div>こうえんで あそぼう</div> <div>（2時間）</div> <div>公園で遊ぶ活動を通して、公園の施設や利用する人々との関わり方を考え、これからもルールやマナーを守って楽しく安全に遊びや生活ができるようにする。</div>	知	公園は、さまざまな人が利用する場所であることや、利用する際にはきまり（ルールやマナー）があることに気付いている。	「保育所の子どもたちがいるからいっしょに遊ぼう。ブランコは先に遊ばせてあげよう」「先生と読んだ看板にかいてあった『安全に遊ぶためのお願い』は守ろうよ」など、公園はさまざまな人が利用する場所であり、ルールやマナーを守ることが大切であることに気付いている。	●遊具で遊ぶときに順番を守ることができなかったり、動植物を手荒く扱ったりするなど公園を利用する人に迷惑をかけている子どもには、ほかの子どもたちの姿を観察させ、その場所の使い方とともに振る舞い方に気付くことができるようにする。
	思	公園の遊具や自然を使って、楽しく安全に遊んでいる。	「虫がたくさんいるから、みんなで捕まえて学校で世話をしよう」「あの大きな木を使って、こども園でも遊んだ『だるまさんが転んだ』をしよう」「私たちよりも小さな子がいるからブランコは順番を決めて仲良く乗ろうよ」など、これまでの学校生活や遊びの経験をもとに、遊具や自然の特徴を生かした遊びや遊び方を提案したり、みんなで楽しく安全に遊ぶ方法を考え、伝え合ったりしている。	●公園の遊具の正しい使い方やその季節に応じた自然の特徴をとらえることが難しい子どもには、ほかの子どもたちの姿と自分の遊び方を比べさせたり、声をかけたりして正しい使い方を考えることができるようにする。また、教師がその季節の自然の草花などを紹介し、自然に対する興味を高めることができるように支援する。
	態	学校の周りにある公園に親しみを感じ、これからも利用しようとしている。	「お休みの日にもまた友達や家族と遊びに来て今度は〇〇したいね」「今日はチョウがたくさん飛んでいたね。夏に来るとカブトムシがいるのかな」など、公園で遊んだからこそわかった遊具や自然の魅力をさらに味わいたいという思いをもって、これからの家庭生活や学校生活で積極的に公園を利用しようとしている。	●子どもたちが公園でしてみたいことを紹介する時間を設け、遊びを決めることができるようにしていく。 ●春だけでなく、夏や秋など継続的に公園に訪れる機会を設け、自然のようすが移り変わっていくことを楽しいと感じることができるようにしていく。